

教師として大切にしてきたこと「授業」

教育部次長 杉江 薫

皆さんが教師をめざしたきっかけは何ですか。私が教師になると心に決めたのは、母校での教育実習の時です。4週間の実習期間中、毎日、子どもたちと関わり、関係が深まっていきました。ただ、真面目に実習に臨んでいたものの授業は散々でした。研究授業では、言葉遣いや指示の出し方に加え、教師主導の授業展開について実習担当の先生から酷評され、すっかり自信を無くしました。「教師に向いてないのかも。」そんな私を前に向かせてくれたのは子どもたちでした。最終日に子どもたちと共に涙を流している自分。なぜこんなに泣けるのだろう。こんな風に喜びや感動を子どもたちと分かち合える仕事って素晴らしい。純粋な子どもたちの気持ちが私に教師になることを決意させてくれました。



無事、教師になってからは、学級経営や保護者対応、不登校や特別支援の対応に悩み奮闘する日々。しかし、苦労を上回る喜びや感動があるのが教師という仕事。授業がねらい通りに進んだ時のささやかな喜び、運動会や卒業式で味わう何とも言えない感動。保護者や地域の方からいただく感謝の言葉。教師になってよかったと思える瞬間です。

そんな中、私が大切にしてきたのは授業です。教育実習の反省から、自身の課題を何とか克服して授業がうまくなりたいと思ってきました。先輩の授業を参観して刺激を受け、できることから自分の授業に取り入れました。そして、初任校の4年間で、運よく県の学校訪問（道徳）や市の教科等領域別研究部会（小学校理科）の公開授業の機会をいただきました。学校内外の先輩方に厳しくも手厚く指導していただき、教材研究のあり方や指導案の書き方を徹底的に教わりました。20代、30代の頃は、公開授業以外でも、管理職や先輩に直接お願いして普段の授業についても指導していただきました。めざしたのは、子どもたちが主体的に学ぼうとする姿が見られる授業。やがて、子どもたちから「人の考えが知りたい。」「話し合いが楽しい。」「次は〇〇がしたい。」と、意欲や達成感を示す声が聞こえてくるようになっていきました。全てに納得できる授業は難しいですが、「授業を見る」「授業を見せる」「教材研究」という授業力向上の基本は学んできたように思います。

時が経ち、これまで市内の小中学校を訪問する機会をいただけてきました。教室に入って、まず注目するのは先生方の表情や言葉遣い、目配り、気配り。そして、子どもの表情、反応、授業に向かう姿です。わずかな時間ですが、経験を問わず授業を大切にされている姿勢は伝わってきます。学級や学校の安定は、日々の授業によるところが大きいと改めて実感しています。教師が授業を大切に作る姿勢は、子どもたちの学力面のみならず、心の安定や生徒指導面においても影響を及ぼします。1日に数時間、それが1年間続くことを考えると教師の責任は重大です。だからこそ、一時間一時間の授業を大切にしていきたいのです。

さて、この度、第4期大津市教育振興基本計画が策定されました。この4月から5年間は計画期間になります。基本理念は『一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育』です。その中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が謳われています。求められているのは、まさに授業改善です。私たちは、プロの教師として、子どもが「わかった!」「できた!」という達成感を得られる「よい授業」をめざしたいものです。新しい時代を生きていく子どもたちのために、学び続ける教師であってください。

今年度の研修は全て終了いたしました。運営にご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。
各研修の最終回の内容を、一部紹介します。

初任者研修（小・中）

第16回【2/18・2/20】 閉講式

令和6年度初任者研修の閉講式を行いました。1年間を振り返り、成果や成長、今後の課題や目標について、「教師としての志」として次年度に向けた所信表明を行いました。どの初任者も、自分の思いや決意、支えてくださった人たちへの感謝の気持ちなど、しっかりと伝えることができました。

また、大津市小・中学校校長会を代表して、2名の校長先生にもご出席いただきました。「信頼される教師を目指して」をテーマにご講話をいただき、今後の教師としてのあり方について多くのご示唆をいただきました。

【初任者の声】

- *指導教員と学年団の先生方から、様々なことをじっくりと温かく教えていただき、充実した一年となりました。自分自身で学級を回していく責任感で不安な毎日でしたが、多くの人の支えを感じた場面が多く、感謝の気持ちでいっぱいです。来年度は、2年目として大津で勤務する自覚、今年度の学び、子どもとの関わりの中で得た経験をつないでいきたいです。
- *社会人としてだけでなく、教育者として学びの深まった一年となりました。教員の仕事の素晴らしさ、やりがいを感じています。今後は、「生徒をいかに導くか」にかかっていると思います。未来を創るこの素晴らしい仕事に誇りを持ち、職務にあたっていきたいです。
- *同期の所信表明を聞き、改めて教師としての自覚と責任感を持って職務に取り組んでいこうと思いました。子どもたちの笑顔はもちろん、まずは自分が笑顔でいることを大切にしていきたいです。今日の気持ちを忘れずに、次年度以降もがんばっていききたいと思います。
- *教職1年目を経て、大きな自信につながりました。また、1年間を通して生徒と関わる中で、互いに心を開き、信頼関係が生まれ、学級経営や授業がより円滑にできるようになり、日々成長する生徒を見守る喜びを実感することができました。初任者研修では、これからの教師人生を支える土台を作ることができました。



教職2・3年次研修（小・中）

2・3年次研修では、1年間を通しての課題研究および授業公開を研修のひとつとして位置づけています。小学校は2年次に算数科、3年次に国語科を窓口とし、また、中学校は、専門教科や特別の教科 道徳、特別活動を窓口として指定しています。

最終回の2月には、その成果や研究から見てきた課題等についての課題研究発表会を行いました。

どの年次も各自で設定した授業研究テーマについて、1年間の実践や成果・今後の課題をグループで交流し、協議しました。

プレゼンテーションソフトでの発表や、画像・実物資料を持参しての発表もあり、どのグループでも熱心な交流と協議が行われました。発表することで自分の実践を振り返り、他の受講者からの質疑応答や指導助言により、自分自身の授業づくりについて深く考える機会となりました。

【2 年次教員の声】

＊（小学校）指導の個別化では、子どもが内容や学びを選択し、学習の個性化では、子どもの探究的な学びを調整する。このどちらもバランスよく行い、かつ協働的に学び合うことができるように考えていきたいと思います。子どものモヤモヤを意図的に引き出すことが教員の資質でもあると思うので、子どもの目を輝かせられるように一緒に学んでいきます。

＊（中学校）授業内容を日常生活と自分自身と関連させたり、学んだ内容を自分の生活に返したりすることで深い学びにつながるということを改めて学びました。また、子どもたちの学び、成長のためにも与え過ぎず、子どもたち自身に考えさせ、決めさせることが大事だと学びました。

【3年次教員の声】

＊（小学校）明確に立てた単元構成と、児童との共有で、単元を見通して学習を進めていく主体的な学びにつながることに改めて気づきました。そして、何よりも子どもの姿をよく見て、寄り添い、日々関わることを通して、いろいろな場面で子どもの成長に携わっていきたいです。授業づくりで「人を育てる」ことはもちろんですが、愛を持って関わり、人を育てられる教員でありたいです。

＊（中学校）学び合いは 1 年生からの積み上げが重要であると感じました。また、学び合いをする上で、課題設定を工夫する必要があると感じました。数学が苦手な生徒も自ら課題と向き合えるように、日々の教材研究に励んでいこうと思います。実践を重ねて指導力を高めていきたいです。



中堅教諭等資質向上研修（小・中）

1 月 17 日に研修の最終回ならびに閉講式を行いました。京都大学 准教授の石井英真先生にお越しいただき、『カリキュラム・マネジメントの充実と「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善』をテーマに、教育現場にあふれている「～力」「～な学び」などの言葉を根本から捉え直し、教育目標の実現に向け、学校全体でビジョンを共有した中で学校づくり、授業づくりに取り組むこと重要性などについてご指導いただきました。



【中堅教諭の声】

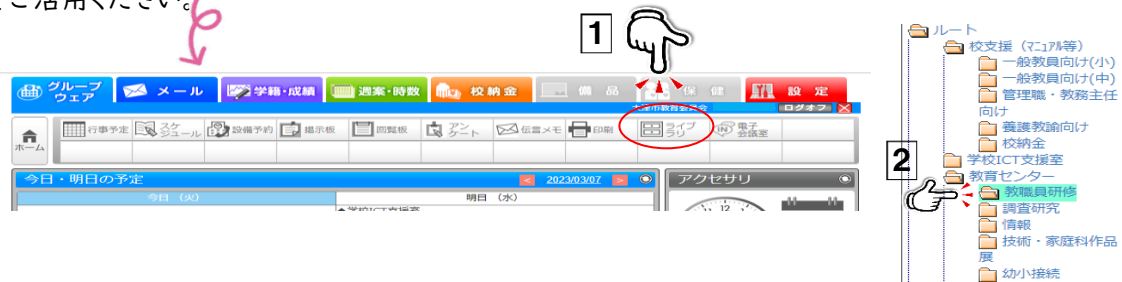
＊正直に言うと、学級、学年のことで精一杯なのですが、もっと広い視野で学校全体を見て、みんなが行きたくなる学校について考えていかなければならないと思いました。教師同士でしっかりとコミュニケーションを取って、同じ方向を向いて進んでいくこと、子どもの姿勢から教師が学ぶことで授業改善を進めていきたいと思いました。

＊学校として、子どもたちを育てていくためには、一人ひとりの思いだけでなく、教師全体で同じ方向を向くことが大切だと思いました。そのために話し合い、協働して子どもや授業を見る目を養い、全体としての教師の資質・能力を高めていきたいです。

OJT推進リーダー研修

2月28日の第3回は、同時双方向型オンライン形式で研修を行いました。校内でのOJT研修だけでなく、近隣校を巻き込んだ大津市OJTに取り組んでくださった学校の実践事例を紹介していただきました。また、各校のOJTの実践例を持ち寄り、小・中学校別のグループ交流を通して、自校の実践を振り返り、次年度に向けて成果と課題を検討する研修でした。規模が近い学校同士でグループ交流を行ったので、小規模校、大規模校ならではの課題の解決法を考えたり、OJTの時間確保の難しさ、研修方法の工夫を話し合ったり、様々な意見交流を行うことができました。

OJT研修は若手教員の育成だけでなく、すべての教職員が学び続ける場として、今後ますますの大津市全体としての取組が求められます。今年度の市内すべての小・中学校の実践例を、校支援ライブラリに掲載しています。どうぞご活用ください。



「わたしたちの大津」編集委員会

今年度の編集委員会では、小学校3年生・4年生社会科副読本「わたしたちの大津」第18版の改訂、指導書の製本・印刷、指導書朱書き編の作成を行いました。その中でも特に指導書朱書き編の作成に力を入れ、3年生「市のうつりかわり」、4年生「県内の特色ある地域」の2つ単元を作成することができました。どちらも3学期の単元であるため、早速各校で活用していただきました。「朱書きがあることで安心して授業を行えた。」「資料の活用の仕方がわかった。」など、うれしい言葉をいただきました。要望等も頂戴し、来年度以降に生かしていきます。

副読本、教師用指導書、教師用指導書朱書き編についてはWeb上でも公開しています。是非ご覧いただき、指導の際に参考になしてください。



令和6年度 学校園教育研究委員会



保育・授業の参観を伴う研究会を実施しました。実際の子どもの姿から、非認知能力の一つである「主体性・共感性」を育む具体的な保育・授業づくりの工夫や教師の関わり方について探ってきました。研究のまとめのリーフレットを各校園に送付いたします。学校園の連携・接続の参考になしてください。

「次代を生き抜くための資質・能力と学校段階における接続を探る」
～輝く笑顔につながる「非認知能力」を育むサイクルについて～



仰木の里東幼稚園 5歳児



瀬田小学校 5年生



志賀中学校 2年生

OIE-NET 教職員向け Web ページの活用について

OIE-NET 教職員向け Web ページでは様々な情報を提供しています。「教材データ・実践事例」の中の「読み解く力を高める授業改善」には、指導案様式(ワード形式)と指導案作成に関するガイダンスとなる指導資料リーフレットを掲載しています。

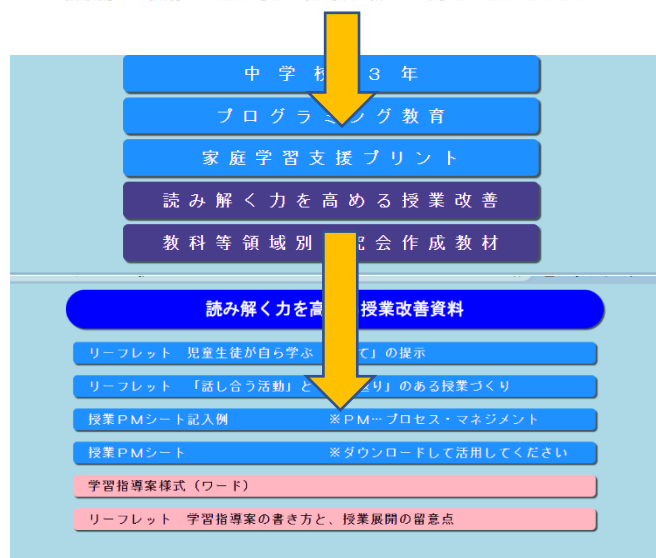
今年度新たに理科編を作成し掲載しました。これで、掲載教科・領域は、国語科・社会科・算数(数学)科・理科・道徳科・学級活動(1)(2)(3)となりました。

合わせて、各教科の実践事例の中で、書画カメラ(OHC)やOHP等の学校では活用しなくなった機器を用いての実践例を削除・整理しました。

各小中学校においては校内での初任者研修や2・3年次研修、校内授業研究会等でお役立てください。

教材データ 実践事例

「指導案」、「教材」、「L-Gate」、「家庭学習支援プリント」等はこちらのボタンから



9 板書 子どもの思考の流れを可視化することを大切に!

どの子にもわかりやすい授業を行う上で大切にしましょう。
板書は、子どもたちの多様な考えが見えるようになることに大切にしましょう。子どもの考えを関連付けたり、観点を分けて分類・整理したりしながら可視化し、内容を構造的に整理(可視化)して、子どもの思考を促す授業をつくります。

【めあて】は、板書をそのままするのではなく、自分の言葉で表現させましょう。
【めあて】の型
「なぜ〜」「工夫して〜しましょう」
「〜を説明しよう」「〜を見つめよう」等

○ふりかえり
「めあて」と「まとめ」を関連付けることで、学んだことを意識した振り返りを行うことができます。

板書することで生徒指導の観点も大切に!

- 子どもたちが自分なりの考えを持つことができる「自己決定の場」として、考えがわかる配置にしましょう。
- 子どもたちが自分なりの考えをまとめ、表現できる活動を確保し、「自己存在」を体験させましょう。
- 交流活動等を通して、子どもたちが自分の考えを深化・拡充できる「共感的人間関係」を育てましょう。

□めあて、まとめは、子どもの言葉を使いましょう。
□子どもの考えや方法を授業で生かしましょう。
(ホワイトボードやタブレット、思考ツール等の活用)

□ふりかえりの観点
や分かったこと、できるようになったこと、次にしたいこと等、自分の実情に気づけるようにしましょう。

10 「主体的・対話的で深い学びを実現する」授業づくり
めあてと見通しを持ち、互いの違いやよさを認め合いながら、わかる・できる喜びを実感できる授業づくり
～学習指導案の書き方と授業展開の留意点～
大津市教育センター 2023年3月作成

学習指導案を作成することの重要性
何を学ぶかどのように学ぶか何が得意になるかという、大切な観点を盛り込みながら学習指導案を作成することは、自身の授業力を高めるとともに、児童生徒の学習成果を大きく左右することにつながります。若手の先生方のみならず、教師の仕事の最も重要なものの一つです。

国語科 学習指導案(例)

さあ、あなたの目指す授業を、子どもの姿を予想しながら創出しましょう。
□は、チェック欄です。

右上に
日時 学級 場所 授業者を記載

- 単元名…「説明の仕方に気を付けて読み書きしよう」(C読むこと B書くこと)
(教科名 馬のおもちゃの作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう)
- 指導によって
 - 単元観・教材観…この単元(教材)が持つ教育的意義、単元を通して付けた力等について記述する。
 - 児童観・生徒観…(1)の付けた力に関わって、児童生徒の実態について記述する。
 - 指導観…これまでどのような力が付き、どのような課題があるのかをもとに、教材観・児童・生徒観を踏まえた指導法の工夫点等について記述する。また、支援を要する児童生徒への具体的な支援についても考えて記述する。
- 単元目標…単元全体に関わる総括的な目標を示す。学習指導要領に準拠すること。
- 単元の評価標準…「各教科等、各学年等の評価の観点及びその趣旨」(大津市教育センター)や「指導と評価の一体化の

若手教員育成学校園訪問を実施しています

大津市教育センターでは、主に経験年数が5年以内の若手教員(講師を含む)を対象に、幼稚園、小学校、中学校への訪問指導を実施しています。今年度は、幼稚園、小学校、中学校を合わせて延べ194名の先生方に対して学校園を訪問させていただきました。

保育・授業を参観した上で、保育・授業づくり・学級経営に関しての悩みを一緒に考え、解決に向けて助言をさせていただきます。

訪問させていただいた学校・園で、「初任者は要請対象外だと思っていた。」「1人1回しか要請できないと思っていた。」といった声がありました。しかしながら、「初任者には校内指導教員や拠点校指導教員がついているから。」「何度も来てもらうのは…。」といった遠慮は必要ありません。指導案づくりから関わらせていただき、授業に対する姿勢や取組、子どもたちとの関わり方が大きく変わられた先生もいらっしゃいます。

新年度改めて通知をしますが、令和7年度も訪問期間は6月～2月を予定しています。「笑顔輝く大津の教育」を具現化するためのひとつの機会として、ぜひご活用ください。

大津のキラリ★みつけた

絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めること。令和6年度が終わろうとしています。研究と修養を自らすすんで求め、指導者としての力量を高められたでしょうか。そして、それを「笑顔輝く大津の教育」に生かされたでしょうか。



むのたけじさん(ジャーナリスト)は、次のように言います。

「学ぶ営みは、一人ではじめて、一人へもどっていく。はじめた自分と、もどっていく自分とのあいだに、たくさんの人が入れば入るほど、学んだものは高くなり深くなる。([『詩集たいまつⅠ』による])」

このことは、教室で学ぶ子らにも、そして、その子らの前に立つ私たち指導者にも言えることです。それぞれが自分としっかり向き合い、自分で考え、仲間とともに学びを共有し、「ひとつ上の自分」へと成長していく。



ある初任の先生は、この一年間を次のように振り返っておられます。

「子どもたちは常に担任である私を見ており、教師としての私は、子どもたちにとって学校の中で一番近くにいる信頼できる人であらねばならないということを学びました。教師一年目だとかには関係なく、責任を持って行動しなければならないと改めて実感しました。また、「謙虚でいること」の大切さも学びました。この姿勢でいることで、たくさんの先生方がそれぞれの立場から教えてくださるので、これからも謙虚に学び続けようと思います。」

この思いの中には、校内の先生方との確かなつながりの中での学びや成長が感じとれます。

こうした姿こそが、まさに大津の「キラリ」であり、「あした」へとつながる「キラリ」なのです。

教育センター図書をご利用ください



『生徒指導の記録の取り方
個人メモから公的記録まで』
周防 美智子・片山 紀子 著
学事出版

教育センターでは授業づくりや、園児・児童・生徒支援に役立つ図書を貸し出しています。その中から、一部ご紹介します。

間違った「聴き取り」が「不適切な指導」につながらないようにするための子どもの話の聴き方や、それらの情報についての記録への残し方が掲載されています。

- ・「時間がないからまた後で。」は絶対 NG。(時間が経つと記憶は薄れていく。)
- ・時間がないから正しく記録を残していく。
- ・記録が残っているから、自信をもって対応することができる。

そういった工夫が、子どもの安心・安全を守っていくことにつながっていきます。ケース会議の進め方や支援シートの書き方も事例を基に紹介されています。若手だけでなく、経験のある先生にもおすすめの一冊です。

その他にも、興味深い書籍を多数揃えております。貸出の詳細は、教育センター所員にお問い合わせください。